



託児の申込は講座の2日前(休館日を除く)までに
直接こども室へ電話してください
対象:1歳から就学前までのお子様
こども室 088-655-4638



パーク テレコメディア (6月から愛称を変更しました)
(徳島県立男女共同参画総合支援センター)

〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示1-1(アスティとくしま2階)

TEL: 088-655-3911 ファクシミリ: 088-626-6189

E-mail: flairtokushima@mf.pikara.ne.jp

URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/flair>

開館時間: 10:00~18:00

休館日: 毎週火曜日(祝日の場合は翌日)

年末・年始休

パーク テレコメディア情報



☆ 講座の申込方法 ☆

電話、ファクシミリ、E-mailのいずれかで、パーク テレコメディアへお申し込みください。

なお、各欄に申込先等がある講座は、そちらに直接ご連絡ください。

☆講座を中止する場合には、決定次第 パークテレコメディアHPに掲載いたします。

7月10日(木) 10:30~12:00 ◇申込不要	(共催) 大人と絵本 ~心の基礎体力をつけましょう~ ●場所: 学習室(アスティとくしま 2階) ●対象: 大人 ◎問合せ先: 女性グループ・すいーぷ 電話 088-631-5731 080-2995-1639(山橋)	女性グループ・すいーぷ
7月17日(木) 10:00~12:00 ◆要申込	(共催) ほのぼの子育て お話スペース フレア ●場所: 学習室(アスティとくしま 2階) ●対象: 育児中の方、または育児に関心のある方 ●定員: 20名程度 ●参加費: 200円(資料代) ◎問合せ先: なかみちの会 電話 090-4330-1336 E-mail: adlertokushimamama3@gmail.com (細川)	なかみちの会
7月26日(土) 13:30~15:00 ◆要申込	楽しく学ぼう! 夏休み防災教室 ~自分らしく備える防災リュックづくりに挑戦~ 地震・津波などの基本的な知識や自分らしく備える防災リュックづくりについて学びます ●講師: 徳島県防災人材育成センター活動推進員 中野裕文さん ●場所: 学習室(アスティとくしま 2階) ●対象: どなたでも(お子様の推奨年齢は小学校3年生ぐらいから) ●定員: 40名程度	
7月27日(日) 13:00~16:00 ◇申込不要	(推進) 徳島あいの会(わかちあいの会) ~大切な人を自死で亡くした家族同士が語り合う場~ ●場所: 第5会議室(アスティとくしま 2階) ●対象: ご家族を自死で亡くされた方 ◎問合せ先: 徳島県精神保健福祉センター 電話 088-602-8911	
7月27日(日) 13:30~15:50 ◇申込不要	(共催) フレアシネマ劇場 徳島県女性協議会 第1部: 徳島県女性協議会からのお知らせ 研修「アンコンシャスバイアス(無意識の思い込みや偏見)について考える」 第2部: 映画上映「きみの瞳が問いかけている」 2020年作品(日本) 上映時間123分 日本語字幕あり ●場所: テレコメディア ホール(アスティとくしま 2階) ●対象: 一般 ●定員: 先着100名	

フレア相談室 (6月から愛称を変更しました)

☆電話相談☆ 月・水・木・金・土 10:00~12:00・13:00~17:00

☆面接相談(予約制)☆

女性対象 毎月第1・3・4木曜日 10:00~12:00・13:00~16:00 (1人50分程度)

男性対象 毎月第1・3金曜日 15:00~17:00(1人50分程度)

☆法律相談(予約制)☆

女性対象 毎月第2木曜日 13:00~16:00(原則 1人30分)

男性対象 毎月第2金曜日 13:00~16:00(原則 1人30分)

☆創業相談(予約制)☆

毎月第2・4水曜日 10:00~12:00・13:00~16:00 (1人50分程度)

☆子育て相談(予約制・未就学児に関する事)☆直通電話 088-655-4641

電話: 日・月・水・木・金・土 11:00~12:00・13:00~16:00

面談: 日・月・水 11:00~12:00・13:00~16:00

* いずれの相談も休館日は休み



電話 088-626-6188

☆面接・法律・創業・子育て相談は
必ず電話での予約をお願いします。

6月より男性のための法律相談が
始まりました



被災時の困難をできるだけ小さくするために

見落としがちなニーズに気づくために

防災活動と災害時の担い手を増やすために

防災には、男女共同参画・様々な視点が必要です！

防災分野の女性の参画はまだまだ少なく、これまでに起きた各地の災害でも、日頃からの男女共同参画社会の推進の重要性が訴えられています。「男性だから」「女性だから」といった性別によって役割を分担するのではなく、災害という緊急時であっても、誰もが等しく尊重されるためには「様々な視点」が不可欠です。

○自主防災組織は・・・

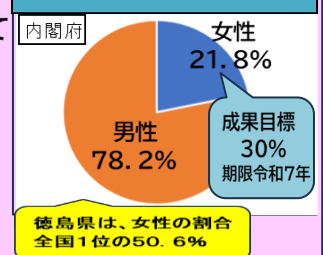
責任者の大半が男性では、防災活動に女性や子ども・若者が参加しにくく、参加していても重要な決めごとには関わらず、様々なニーズが把握しづらくなります。

また、一部の男性に防災活動の負担が集中することも問題です。

誰もが、性別や立場にとらわれずに、能力を十分に発揮することが、災害に強い地域づくりには欠かせません。

女性の参画が必要です！

都道府県防災会議の委員に占める女性の割合(令和5年度)



○防災訓練では・・・

実際に役に立つ防災訓練にするために、女性や子ども・若者も含めて多くの人が参加したくなるよう工夫し、様々なことが学べる訓練にしましょう。

そのためには・・・

☆ だれもが参加しやすい訓練に

- ・いろいろな世代や様々な状況にある人々が興味を持ち参加しやすい内容の訓練
- ・多様な人々のニーズに配慮した訓練

☆ 役割を性別で固定しない

- ・「機械操作は男性、炊き出しは女性」などと決めつけず、柔軟な役割分担をする

☆ 備蓄品は様々な人の視点を反映する

- ・各家庭の備蓄は、性別、育児や介護等、家族の事情に応じて
- ・誰もが使いやすい防災資機材を用意

☆ 避難所のシミュレーションをしておく

- ・実際の生活を想定した避難所の配置を前もって検討
- ・年齢や性別を問わず、多くの人が防災資機材を実際に使えるような訓練を

○避難所では・・・

大災害時には、長いあいだ避難所で共同生活を続けるかもしれません。「避難所運営は男性、炊き出しは女性」などと、固定的な役割分担意識に基づく避難所運営では、地域の少数の男性役員が責任をすべて引き受け、疲労困憊したり、育児や炊き出しなどに追われ女性も疲労困憊といった状況になりかねません。

また、高齢者や障害者の方が体調を崩し、つらい状況に置かれても、なかなか相談できないといった状況もあります。

高齢者、乳幼児、子ども、障害のある人、妊産婦、外国人等々、性別や立場が違えば、必要な住環境、物資、サービスも違ってきます。



多様な人々のニーズに配慮して、避難所の空間利用や運営を考えておくことで、みんなが少しでも過ごしやすくなり、被災時の困難を軽減できます。



避難所の運営体制・運営ルール 男女共同参画局 避難所チェックシートより

運営体制	☐ 管理責任者には男女両方を配置している ☐ 自治的な運営組織の役員に女性が3割以上参画している ☐ 運営組織に、多様な立場の代表が参画している ・介護・介護が必要な人 ・PTA ・障害者 ・中学生・高校生 ・乳幼児がいる家庭の人 ・外国人(居住者が多い場合)
運営ルール	☐ 避難者による食事作り・片付け、清掃等の負担が、特定の立場の人に偏っていない(男女を問わずできる人で負担) ☐ 女性用品(生理用品、下着等)は女性担当者が配布を行っている
ニーズ把握	☐ 避難者から要望や困りごとを受けられる仕組み体制がある(トイレ等への意見箱の設置) ☐ 女性や子育て・介護中の家庭の要望や困りごとを積極的に聞き取り、運営に反映させている ☐ 避難者名簿を作成し情報管理が徹底されている(氏名、年齢、性別、健康状態、保育や介護を要する状況、避難場所、住宅・車中泊、外部からの問い合わせに対する情報の開示/非開示の可否) ☐ 相談体制の整備、専門職と連携したメンタルヘルスケア・健康相談が実施されている